

懇話会における議論のフィードバック（4次元サイバーシティ関連）

- 5月17日の「宇宙利用の将来像に関する懇話会」での議論及びそれに対する本タスクフォースの考え方(案)。(「⇒」に考え方(案)を記載。)

- データ基盤や検証基盤の連携方法の具体化が求められる。

- ✓ 経済産業省による政府衛星データのオープン&フリーのプラットフォームは、ステークホルダ委員会を開催し、文部科学省DIASや気象庁との連携について議論を進めている。
- ✓ NICTテストベッド等とのデータ連携をしやすいよう、議論を進めていきたい。

- ⇒ プラットフォームには、用途を限定したアプリケーション機能を持たせず、APIを開放。
各プラットフォームがデータを複製して持つのではなく、相互に利用可能な状態があるべき姿。

- ユーザ拡大に向け、幅広い分野における衛星データ活用を促す取組みが重要。

- ✓ SDGs、Society5.0といった社会的な動きと結びつけることも必要ではないか。
- ✓ アイデアソン等で発想力豊かな若手の意見を引き出す取組があるとよい。
- ✓ 宇宙に興味を持つ人を現在の100倍にしたい。学校教科書に載せるなど、若年層に向けた働きかけも必要だし、各業界団体等へ向けた“どぶ板営業”のような取組も必要。

- ⇒ 企業の経営層向けには、短期的にはデジタルビジネスへの活用、中長期的にはSDGsといった環境経営も啓蒙。
アイデアを引き出す取組は、内閣府「S-Booster」をはじめ各府省庁のスキームを活用して推進。
また、日本未来科学館との連携により裾野を広げる取組のほか、“どぶ板営業”のような取組も併せて検討。

- 民間が衛星データを活用したビジネスを推進・存続するための支援が求められる。

- ✓ 技術論としては実現可能なところまできているものが多く、問題は民間がビジネスとして推進できるかどうかである。

- ⇒ 各府省庁の実証事業スキームを活用した先進事例創出を促進。
また、先進事例に関しては、各種イベント、セミナー、キャラバン等での周知を実施するとともに、各種業界に対して幅広く発信。

- 今後の技術開発においては、「課題解決に対して現在の技術では何が不足しているのか」を把握した上で、方向性を定めていかなければならない。

- ✓ 地域課題として「空き家の状況把握」のニーズは強いが、現在の赤外線センサの分解能では難しいと認識。
- ✓ 時間分解能についても取り組まねばならない課題。

- ⇒ 民間でのビジネス化・拡大に向けた試行や実証事業等の結果を踏まえ、競争的資金等によってニーズに基づく研究開発を推進。